鴻巣市 市長　並木　正年 殿
鴻巣市 市議会議長　潮田　幸子　殿
鴻巣市教育委員会 教育長　望月　栄 殿

鴻巣市立小・中学校のあり方研究懇話会への意見書

2023年11月21日

以下の各委員

富田 昇、袴田　亮一、牧野　哲也、須田　善博
飯田　五郎、渡辺　克己、渡部　嘉夫

記

鴻巣市小・中学校の適正規模・適正配置を進めるにあたって、以下の2点について提案いたします。

1，合併・統合するなら統合先は吹上小ではなく大芦小を検討すべきではないか

理由・・・立地、規模、教育環境の3点から上記提案を行います。

・立地について、吹上小・大芦小・小谷小の通学区域を見るに通学距離の観点から考えれば統合先は中央に位置する大芦小が最も適切であると言えます。
また、廃校後の跡地活用についても吹上駅に近い吹上小跡地の方が資産価値も高く利活用や民間への売却など大芦小跡地より活用しやすいと言えます。

・規模について、かつて1,000人規模の児童に対応していたように、教室数や校庭の広さなど3校を統合する受け入れ先としては十分なキャパシティを備えています。
吹上小は校庭も狭く教室数にも余裕がないため、600人規模の児童数には適切でないと考えます。

・教育環境について、校舎の老朽化やトイレ問題など施設面では吹上小に劣るものの2010年に耐震補強工事が完了しており、計画的に予算組をしてトイレ改修等を実施すれば今後も相当な期間の利用が可能と考えます。また、大芦小では田植え体験をはじめとして特色ある教育活動が実施されており、児童の教育環境としては他校にない教育効果があると考えます。

2，児童・保護者や地域住民の意見を考慮し、大芦小の統廃合計画は一旦凍結する

理由・・・本懇話会の第1回会合で「適正規模・適正配置」の取り組みは市の財政上の要望ではないと教育委員会から明言された通りであるならば、児童・保護者・地域住民から多くの反対意見が表明されており小規模校のデメリットが顕在化していない現状において、「令和6年~9年」を統合予定年度と期限を設けて協議することは適切ではないと考えます。

今後、新入学児童の実際の推移を注視しつつ、小規模校のデメリットが顕在化し統合を臨む児童・保護者の声が多数を占めた時期を待って改めて検討すべきではないでしょうか。
その際にも、統合ありきではなく通学区域の見直しなどを含め、当事者の意見を十分に吸い上げながらこの統廃合問題が総合的に協議されることを重ねて要望致します。

以上